

- ✓ 教科書をなぞるだけの授業では、単なる知識・技術の伝達になってしまう。
- ✓ 変化の激しい社会において、柔軟に対応できる資質・能力を身に付けるためには、「何ができるようになるか」といったゴールイメージを持ち、それらを意識した授業を展開しなければならない。

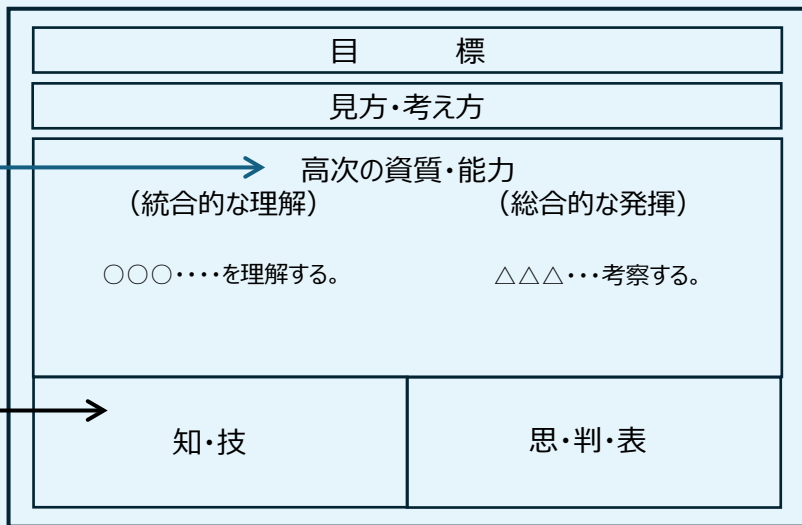


身に付けるべき資質・能力を踏まえた指導計画の作成

学習指導要領の記述の確認

- ✓ 高次の資質・能力
- ✓ 次期改訂において資質・能力ベースの記述への改善

デジタル学習指導要領（イメージ）



学習指導要領を確認すれば、

- ✓ 「高次の資質・能力」として、学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。
- ✓ また、他教科や前後の学習内容も確認できるし、デジタル学習指導要領では、解説の記述や評価規準例も見られるようになる。



単元計画の作成

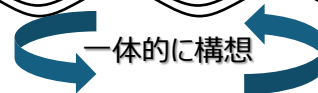
- ✓ 高次の資質・能力を踏まえ、配当時間の設定
- ✓ 理論と実践の往還を意識した配列
※実験・実習の配当時間や配当時期の設定
- ✓ 他教科及び同じ教科の中で複数科目との関連付け

学習指導要領を踏まえ指導計画を作成してみよう。職業に関する教科では、理論と実践の往還を意識した配列が重要。特に、実験や実習は当該期間（時季）でしかできないものがあるため、これらを意識した単元配列が求められる。

✓ 同じ教科の中で複数の科目を並行して学習するため、それらの科目との関連を踏まえる必要がある。



時間	学習活動	重点	記録	備考
3	●●● (理論)			
4	●●● (実験・実習)			
5	●●● (理論)			※「△△△△」と関連させながら指導。



評価計画の作成

- ✓ 「記録に残す評価」の精選、「学習改善等に生かす評価」の充実
- ✓ ペーパーテストだけでなく、パフォーマンス課題を用いた評価

評価計画も一体的に構想することで、学習評価を資質・能力の育成に活用するイメージがもて、指導と評価の一体化を進めることができる。



		科目名：農業と環境 単元名：農業と農業関連産業「農業生産の基礎」	
※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」の記載は産業教育WGの御議論を踏まえて事務局にて例として作成したものの。		<p>(統合的な理解) 農業及び農業関連産業は、環境要素や地域特性を踏まえた栽培、加工の技術に支えられており、これらを高めていくことが、よりよい農業生産につながることを理解する。</p> <p>(単元目標・評価規準) 知識及び技能 (ア) 農業生物の種類・特性・育成に影響する環境要素の種類と働きを理解している。 (イ) GAPに基づく観察・記録・分析・評価の方法を身に付けている。 (ウ) 収穫後の農産物が、生鮮・加工など多様な形で流通していることを理解している。</p>	<p>(総合的な発揮) 農業及び農業関連産業における事象を、生命現象と環境の関係性、産業間の関連、地域特性の観点から考察することができる。</p> <p>(単元目標・評価規準) 思考力、判断力、表現力等 (ア) 農業生物の育成と環境要素の相互関係について、実習データをもとに考察し、よりよい農業生産の計画と工程管理に結び付けて表現できる。 (イ) 農業生産と農業関連産業とのつながりを、生産の過程と関連づけて考察し、表現できる。</p>
		単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり（抜粋）	
時	学習内容		
22 21	<ul style="list-style-type: none"> 生育データの分析・考察・評価課題 全工程データの整理・分析 環境要素と生育の考察 改善策の立案・論述 	<p>種類や特性、生育段階に応じた適切な環境要素の設定が、よりよい農業生産につながっていることを理解する (ア・イ)</p>	<p>科学的な根拠をもって改善策を立案し、論述などにより表現する。(ア) 農業生産と関連産業とのつながりの観点も加えて考察し、表現する (イ)</p>
20 19	<ul style="list-style-type: none"> 収穫・収穫後管理 (実習) 収穫作業の実施 収穫物の調製・品質確認・記録 	<p>収穫期に影響する環境要素の種類と働きを理解する。(ア) 収穫後の農産物が生鮮・加工など多様な形で流通することを理解する (ウ)</p>	<p>施肥・生育管理実習の観察データをもとに収穫適期を考察する (ア) 定植期の環境要素が、生育期に及ぼす影響について考察する (ア)</p>
18 17	<ul style="list-style-type: none"> 収穫・収穫後管理 (理論) 収穫適期の判断基準 収穫後の品質管理と貯蔵 	<p>生育期に影響する環境要素の種類と働きを理解する (ア) GAPに基づく記録・管理の方法を身に付ける (イ)</p>	<p>生育データをもとに管理作業の必要性和根拠を考察する (ア) 定植期の環境要素が、生育期に及ぼす影響について考察する (ア)</p>
16 13	<ul style="list-style-type: none"> 施肥・生育管理 (実習) 整枝・誘引・施肥作業の実施 継続的な生育観察・記録 GAPに基づく工程管理 	<p>定植期に影響する環境要素の種類と働きを理解する (ア) 肥料の種類と施肥設計の原理を理解する。(ア)</p>	<p>育苗実習のデータをもとに、定植・施肥の判断根拠を考察する (ア) 発芽・初期成育時の環境要素が、定植期に及ぼす影響について考察する (ア)</p>
12 11	<ul style="list-style-type: none"> 生育管理 (理論) 生育段階と管理作業の関係 	<p>発芽・初期成育に影響する環境要素の種類と働きを理解する (ア) 生育状況と環境データを観察・記録し続けることが、分析・評価・改善につながることを理解するとともに、その技能を身に付ける (ア・イ)</p>	<p>発芽の状況と環境要素の関係について考察する (ア)</p>
10 9	<ul style="list-style-type: none"> 定植・初期管理 (実習) 定植作業・初期生育管理の実施 生育観察・環境データの記録 	<p>農業生物の性質について理解する (ア) GAPの考え方や実践方法を理解する (イ)</p>	<p>地域特性を踏まえた栽培計画表を作成し、表現する (ア、イ)</p>
8 7	<ul style="list-style-type: none"> 施肥・定植・初期管理 (理論) 定植適期の判断基準 肥料の種類と施肥設計 土壌・生育環境と生育の関係 	<p>農業と農業関連産業の概要を理解するとともに、理論と実習を往還しながら学ぶ方法を理解する (ア)</p>	<p>農業生産と関連する産業とつながりについて考察する。(イ)</p>
6 5	<ul style="list-style-type: none"> 育苗 (実習) 播種・育苗管理の実施 生育状況の観察・記録 		
4 3	<ul style="list-style-type: none"> 育苗 (理論) (例：トマト) 発芽条件・育苗管理 温度・光・水分と初期生育 		
2	<ul style="list-style-type: none"> 農業生物の主な性質 農業生物の栽培計画 農業生産工程管理 (GAP) 		
1	<ul style="list-style-type: none"> 単元のガイダンス 農業と農業関連産業の概要 		
本単元の学習に関連が強い既習内容		(中学校 情報・技術) 生物育成	【家庭】食生活と健康 【理科 (生物基礎)】生物の特徴 との関連も考えられる
<p>(学びに向かう力・人間性等の「見取る姿」) 【検討中参考イメージ】 ※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意 ・農業関係者や地域社会との連携・協働や対話・議論を通じて、課題をよりよく解決しようとしている。 ・農業及び農業関連産業の事象に職業人としての視点から問いを見だし、生産・環境・資源のつながりを意識しながら粘り強く追求しようとしている。 ・学習の過程を主体的に振り返り、農業と暮らしや社会とのつながりを意識しながら、自己の思考や行動を評価・改善しようとしている。</p>			

生命現象と環境の関係性に着目し、農業及び農業関連産業を支える技術とよりよい農業生産のつながりを捉える。

【農業と情報】農業の各分野における先進技術や革新技術に関する学び

【農業】

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ

単元構想のイメージ

1. 科目名：農業と環境

2. 単元名：農業と農業関連産業「農業生産の基礎」

学習指導要領の記述

3. 教科の見方・考え方

農業や農業関連産業に関する事象を、生産・環境・資源の統合的な視点で捉え、職業人としての自己の成長と農業の持続的な発展につなげること。

学習指導要領の記述

4. 分野・区分の高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
農業及び農業関連産業は、環境要素や地域特性を踏まえた栽培、加工の技術に支えられており、これらを高めていくことが、よりよい農業生産につながることを理解する。	農業及び農業関連産業における事象を、生命現象と環境の関係性、産業間の関連、地域特性の観点から考察することができる。

指導要録通知の「学びに向かう力」の見取る姿

5. 学びに向かう力・人間性の「見取る姿（仮称）」

- 農業関係者や地域社会との連携・協働や対話・議論を通じて、課題をよりよく解決しようとしている。
- 農業及び農業関連産業の事象に職業人としての視点から問いを見だし、生産・環境・資源のつながりを意識しながら粘り強く追求しようとしている。
- 学習の過程を主体的に振り返り、農業と暮らしや社会とのつながりを意識しながら、自己の思考や行動を評価・改善しようとしている。

何を身につけたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

6. 単元の目標・評価規準

目標（評価規準）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	農業生物の種類・特性・育成に影響する環境要素の種類と働きを理解するとともに、GAPに基づく観察・記録・分析・評価の方法を身に付けている。また、収穫後の農産物が生鮮・加工など多様な形で流通していることを理解している。	農業生物の育成と環境要素の相互関係について、実習データをもとに考察し、農業生産の計画と工程管理に取り組んでいる。あわせて、農業生産と農業関連産業とのつながりについて考察し、表現している。

7. 評価課題

身につけさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

「栽培実習の生育データをもとに生育に影響を与えた環境要素を分析し、農産物が加工・流通を通じて農業関連産業とどうつながるのかも触れながら、よりよい農業生産に向けた改善策を科学的な根拠を示して提案しなさい。」

評価課題に向けて資質・能力を身につけ、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身につけさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

8. 指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	備考
				※実習の実施時期は作付けのタイミングに応じて設定する。
1	●単元のガイダンス ●農業と農業関連産業の概要	知		※ガイダンスでは、科目全体の流れ（本単元→プロジェクト学習への接続）と、理論と実習を往還しながら学ぶ本単元の進め方を指導する。 ※農業生産と農業関連産業とのつながりに触れる。
2	●農業生物の主な性質 ●農業生物の栽培計画 ●農業生産工程管理（GAP）	知 思	○ ○	※農業生物の性質、GAPの考え方・実践方法を理解させる。 ※地域特性を踏まえて作物・栽培方法を選定する視点をもって栽培計画表を作成できるよう指導する。
3 4	●育苗（理論）（例：トマト） ・発芽条件・育苗管理 ・温度・光・水分と初期生育	知		※発芽・初期生育に影響する環境要素を理解させる。育苗実習で理論を実習で確認させるための前提知識として位置づける。
5 6	●育苗（実習） ・播種・育苗管理の実施 ・生育状況の観察・記録	知 思	○ ○	※発芽条件を実習で確認させる。 ・観察・記録の習慣を形成する最初の実習。 ・「農業と情報」と関連させ、データの収集・分析・活用の学びと接続する。
7 8	●施肥・定植・初期管理（理論） ・定植適期の判断基準 ・肥料の種類と施肥設計 ・土壌・生育環境と生育の関係	知 思	○ ○	※育苗実習の観察結果を振り返りながら、定植適期・施肥設計・土壌環境の理論を学ぶ。 ※観点別学習評価は、生育データをもとにした定植・施肥の判断根拠の考察を記述分析で評価する。
9 10	●定植・初期管理（実習） ・定植作業・初期生育管理の実施 ・生育観察・環境データの記録	知 思	○ ○	※定植適期の理論を根拠に判断・実施させる。 「なぜこのタイミングで定植するか」を生徒自身が根拠をもって説明できるよう指導する。
11 12	●生育管理（理論） ・生育段階と管理作業の関係	知 思	○ ○	※定植後の生育観察データをもとに、生育管理の必要性を理論で確認させる。実習データが理論学習の動機となる往還の場面として指導する。生育データをもとにした管理作業の必要性と根拠を記述式で評価する。
13 16	●施肥・生育管理（実習） ・整枝・誘引・施肥作業の実施 ・継続的な生育観察・記録 ・GAPに基づく工程管理	知 思	○ ○	※施肥設計の理論を根拠に判断・実施させる。 ・農業と情報と関連させ、データの収集・分析・活用の学びと接続する。
17 18	●収穫・収穫後管理（理論） ・収穫適期の判断基準 ・収穫後の品質管理と貯蔵	知 思	○ ○	※観察データをもとに収穫適期の判断基準を理論で確認させるとともに、収穫後の農産物が生鮮・加工など多様な形で流通することを理解させる。
19 20	●収穫・収穫後管理（実習） ・収穫作業の実施 ・収穫物の調製・品質確認・記録	知 思	○ ○	※理論で学んだ収穫適期の理論を根拠に判断・実施させる。全工程を通じた生育データと収穫結果を照合させ、評価課題への橋渡しとして位置づける。
21 22	●生育データの分析・考察・評価課題 ・全工程データの整理・分析 ・環境要素と生育の考察 ・改善策の立案・論述	知 思	○ ○	※観点別学習評価は、蓄積したデータをもとにした考察の深さ、改善策の妥当性、農業関連産業とのつながりの観点を記述分析で評価し、次単元（プロジェクト学習）の課題設定へとつなげる。

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」（以下「高次の資質・能力」）の記載は産業教育WGの御議論を踏まえて事務局にて例として作成したものです。

第1学年 「工業技術基礎」単元名：（2）ものづくりの加工技術

（知識及び技能の統合的な理解）
・工業に関する様々な加工技術が、産業や生活に関する課題をよりよく解決することにつながることを理解する。

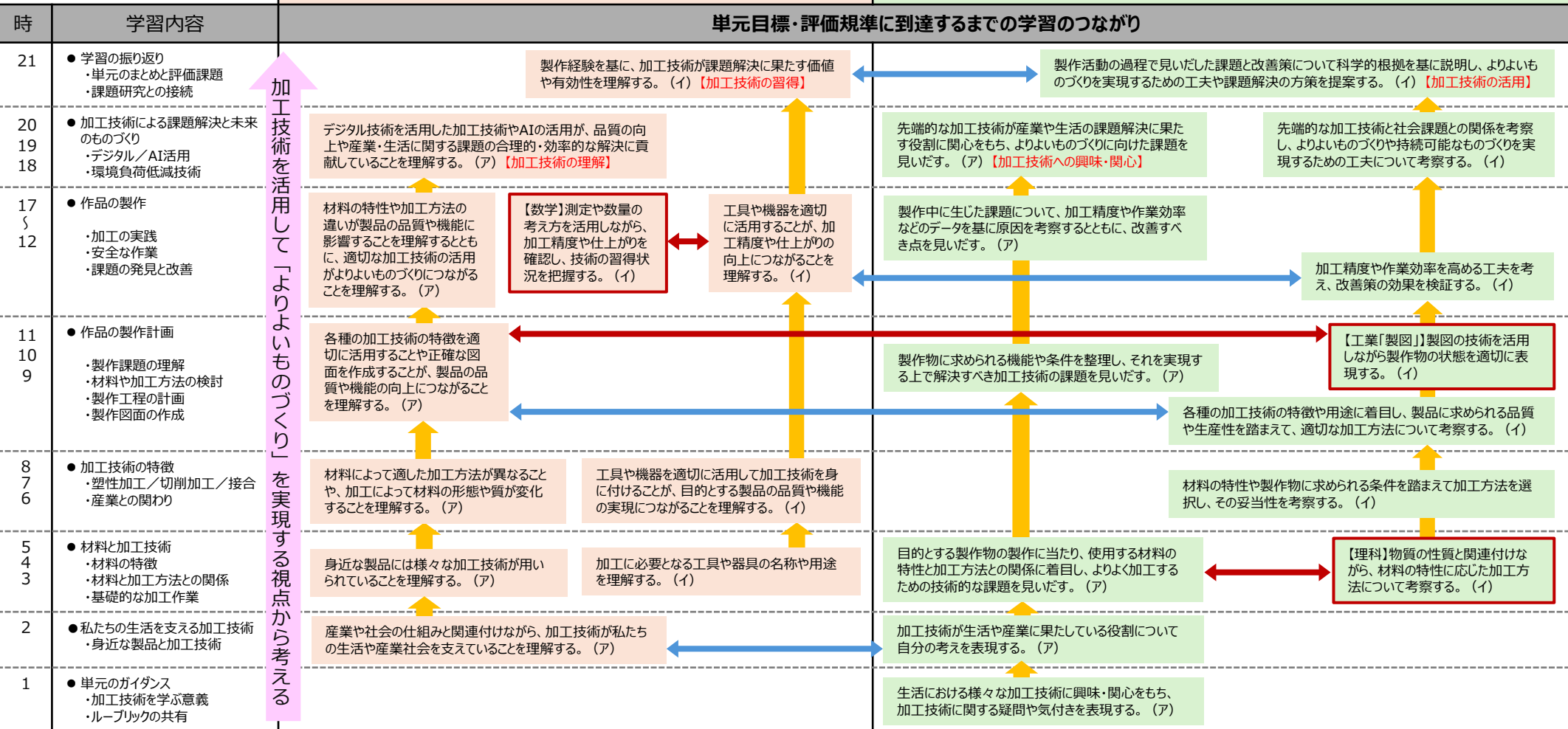
（思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮）
・材料の形態や質の変化に着目し、作品や製品の製作に関する課題を見いだすとともに、倫理観と科学的根拠に基づいて、よりよいものづくりを実現する加工の工夫を創造することができる。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
（ア）金属や非金属など固体状の原材料の形態を変化させる塑性加工、切削加工、成形加工、接合・切断加工などの加工方法を理解している。【加工技術の理解】
（イ）工具や器具を用いた加工及び機械や装置類を活用することを通して、ものづくりを実現するための加工技術を身に付けている。【加工技術の習得】

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
（ア）作品の製作や調査・実験などを通して、加工技術への興味・関心を高めるとともに、課題を見いだしている。【加工技術への興味・関心】
（イ）工具や器具を用いた加工及び機械や装置類を活用した加工を行うことを通して、よりよく加工するための技術について表現している。【加工技術の活用】

単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり

加工技術を活用して「よりよいものづくり」を実現する視点から考える



本単元の学習に関連が強い既習内容

中学校技術（材料と加工の技術）、中学校理科（エネルギーと物質）、工業「製図」、数学（図形と計量、データの分析）、理科（科学と人間生活）

（学びに向かう力・人間性等の「見取る姿」）【検討中参考イメージ】
※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意
・身近な工業技術や製品、社会や産業の変化に関心をもち、自ら課題や問いを見いだすとともに、新しい技術や考え方を探究しながら、よりよいものづくりの実現に主体的に取り組もうとしている。
・よりよい課題解決や新たな価値の創出に向けて、多様な他者との協働を通して自らの考えを深め、創意工夫を生かしながら取り組もうとしている。
・振り返りを通して自らの思考や行動を改善し、自身の目標や将来の職業とのつながりを意識するとともに、安全性や環境への配慮や社会的責任を踏まえながら専門性を高めようとしている。

【工業】 「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ

単元構想のイメージ

1. 科目名：工業技術基礎

2. 単元名：（2）ものづくりの加工技術

3. 工業の見方・考え方

学習指導要領の記述

工業に関する事象を、よりよいものづくりを創出する視点で捉え、職業人としての自己の成長と社会の持続的な発展につなげること。

4. 高次の資質・能力

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
工業に関する様々な加工技術が、産業や生活に関する課題をよりよく解決することにつながることを理解する。	材料の形態や質の変化に着目し、作品や製品の製作に関する課題を見いだすとともに、倫理観と科学的根拠に基づいて、よりよいものづくりを実現する加工の工夫を創造することができる。

5. 学びに向かう力・人間性の「見取る姿（仮称）」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

- 身近な工業技術や製品、社会や産業の変化に関心を持ち、自ら課題や問いを見いだすとともに、新しい技術や考え方を探究しながら、よりよいものづくりの実現に主体的に取り組もうとしている。
- よりよい課題解決や新たな価値の創出に向けて、多様な他者との協働を通して自らの考えを深め、創意工夫を生かしながら取り組もうとしている。
- 振り返りを通して自らの思考や行動を改善し、自身の目標や将来の職業とのつながりを意識するとともに、安全性や環境への配慮や社会的責任を踏まえながら専門性を高めようとしている。

6. 単元の目標・評価規準

何を身につけさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識・技能	思考・判断・表現
	(ア) 金属や非金属など固体状の原材料の形態を変化させる塑性加工、切削加工、成形加工、接合・切断加工などの加工方法を理解している (イ) 工具や器具を用いた加工及び機械や装置類を活用することを通して、ものづくりを実現するための加工技術を身に付けている	(ア) 作品の製作や調査・実験などを通して、加工技術への興味・関心を高めるとともに、課題を見いだしている (イ) 工具や器具を用いた加工及び機械や装置類を活用した加工を行うことを通して、よりよく加工をするための技術について表現している

7. 評価課題

身につけさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

「あなたが製作した作品を振り返り、材料の特性や加工方法が作品の品質や機能にどのような影響を与えたかを説明しなさい。また、製作活動の中で見いだした課題とその改善策について述べるとともに、今後のものづくりにおいて探究してみたい加工技術や製作に関する課題について、その理由を含めて説明しなさい。」

8. 指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身につけ、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身につけさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1	●単元のガイダンス ・加工技術を学ぶ意義 ・単元の見通し ・ルーブリックの共有 ・課題研究との接続	思		・加工技術を学ぶ意義や単元の見通しをもたせる。 ・加工技術が生活や産業を支えていることについて考えさせ、「よりよいものづくりを実現する」視点をもたせる。 ・評価の観点やルーブリックを生徒と共有し、到達目標を明確にする。 ・今後の実習や課題研究につながることを理解させる。
2	●私たちの生活を支える加工技術 ・身近な製品と加工技術との関係	知 思	○	・身近な製品を取り上げ、「加工技術がなければ生活はどうなるか」という視点から関係を考えさせ、加工技術が生活や産業の基盤となっていることを理解させる。 ・その製品がどのような材料と加工技術（切る、曲げるなど）の組み合わせにより製作されているかを考えさせる。 ・製品と加工技術との関係について考えさせ、加工技術が生活や産業を支えていることを理解させる。
3 4 5	●材料と加工技術 ・材料の特徴 ・材料と加工方法との関係 ・基礎的な加工作業	知 思	○	・金属、木材、プラスチックなど製品に広く使われる材料を比較し、それぞれに適した加工方法があることを理解させる。 ・「切る」、「曲げる」、「組み立てる」など基礎的な材料の加工体験を通して、材料の質感や、加工により形態や質が変化することを観察させる。 ・材料の特性と加工方法との関係について、【理科】物質の性質の学習を踏まえながら、自分の言葉で説明できるようにする。 ・製作計画における材料選択につながる視点をもたせる。
6 7 8	●加工技術の特徴 ・塑性加工／切削加工／接合 ・産業との関わり	知		・塑性加工、切削加工、接合などの特徴や用途について理解させる。 ・同じ製品でも加工方法によって品質や生産性が異なることを理解させる。 ・産業界における活用事例を通して、加工技術が課題解決に果たしている役割を考えさせる。 ・製作活動で活用する加工技術との関連を意識させる。
9 10 11	●作品の製作計画 ・製作課題の理解 ・材料や加工方法の検討 ・製作工程の計画 ・製作図面の作成	思	○	・作品に求められる機能や用途を整理し、適切な材料や加工方法について検討させる。 ・安全性、耐久性、作業効率など、複数の視点から判断させる。 ・なぜその材料や加工方法を選択したのか、根拠と共に説明させる。 ・製作後の評価や改善につながるよう計画を立案させる。 ・【工業】「製図」での学習を活かしながら、正確な図面がよりよい加工につながることを理解させる。
12 ～ 17	●作品の製作 ・加工の実践 ・安全な作業 ・課題の発見と改善	知 思	○ ○	・安全な作業を徹底し、工具や機器を適切に活用する技能を育成する。 ・製作中に生じた課題や失敗を作業記録に残させ、その原因や改善策について考えさせる。 ・【数学】測定や数量の学習を踏まえながら、加工精度や作業効率、仕上がりに着目しながら製作させるとともに、製作物についてルーブリックを用いて自己評価を行い、自らの技能の向上や課題を把握させる。 ・改善を繰り返しながら、材料の形態や質の変化に着目し、よりよいものづくりを実現する加工の工夫を考えさせる。
18 19 20	●加工技術による課題解決と未来のものづくり ・デジタル/AI活用 ・環境負荷低減技術	知 思		・デジタル技術、AI、ロボット、自動化技術など先端的な技術を理解させる。 ・環境負荷低減や省資源化など、現代社会の課題との関連を考えさせる。 ・技術の進展が生活や産業の課題解決にどのように貢献しているかを考察させる。 ・将来のものづくりに必要な工夫や技術について自分の考えをまとめさせる。
21	●学習の振り返り ・単元のまとめ ・評価課題	知 思	○ ○	・材料の特性や加工方法と作品の品質・機能との関係を整理させ、加工技術が課題解決に果たす役割について考えさせる。 ・製作活動の中で見いだした課題と改善策について、科学的な根拠を踏まえて説明させる。 ・よりよいものづくりを実現するための加工の工夫について、考えをまとめさせる。 ・今後探究してみたい加工技術に関する課題をまとめさせ、課題研究につなげる。 ・ガイダンス当初の考えと比較し、自己の成長や考えの変容を確認させる。

「高次の資質・能力」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

<p>※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」（以下「高次の資質・能力」）の記載は産業教育WGの御議論を踏まえて事務局にて例として作成したものです。</p>	<p>科目：マーケティング 単元名：市場調査</p> <p>（統合的な理解） 市場調査に関わる知識や技能を高めることで、販売戦略の立案・評価・改善などにつながることを理解する。</p> <p>（単元目標・評価規準）知識及び技能 （ア）市場調査の目的や手順、既存資料による調査と実態調査の違い、定性調査と定量調査の特徴及びサンプルの抽出方法について理解するとともに、市場調査に必要な情報を収集する技能を身に付ける。 （イ）市場調査で得られた情報の分析について、企業における事例と関連付けて理解するとともに、分析結果を販売戦略に活用する技能を身に付ける。</p>	<p>（総合的な発揮） 販売戦略に関する課題を多面的・多角的に捉え、他者との合意形成を図りながら、顧客理解や意思決定をすることができる。 ※高次の資質・能力は直接の評価対象ではないことに留意</p> <p>（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等 （ア）市場調査に関する課題を発見し、その解決に向けて適切な調査方法やサンプルの抽出方法を選択するとともに、収集すべき情報を明確にして調査を計画し、その内容を表現する。 （イ）情報の分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて販売戦略を立案し、評価・改善するとともに、その課題を解決する。</p>
<p>時</p>	<p>学習内容</p>	<p>単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり</p>
<p>7 6 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ●単元のまとめと振り返り ●報告書の作成と発表 ●インタビュー調査 	<p>目的・意義に着目し、対象者への適切な方法を吟味する。</p> <p>報告書を作成するとともに、効果的な発表の方法を理解する。 ※情報処理</p> <p>インタビュー調査の分析結果を適切に解釈する方法を理解する。(イ)</p> <p>仮説に基づき企業等にインタビュー調査の質問内容を設計する技能を身に付ける。(イ)</p> <p>単元全体の学習を振り返り、今後の改善点を見だし、学びを整理して表現する。(ア・イ)</p> <p>仮説との共通点や相違点を基に、仮説や販売戦略を改善し、表現する。(イ)</p> <p>企業等からのインタビュー結果を整理・分析し、その内容を考察する。(イ)</p> <p>4 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市場調査の事例研究 <p>マーケティング・ミックスの内容と、その活用方法を理解する。 ※ビジネス基礎</p> <p>外部環境と購買意識を比較・分析する技能を身に付ける。(ア)</p> <p>季節イベントと購買意識との関係性を分析する技能を身に付ける。(ア)</p> <p>集計やグラフから、意識調査の傾向や特徴を理解する。 ※情報処理</p> <p>生成AIを活用し、データの傾向や販売に影響を与える要因について考察する。(イ)</p> <p>2 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ●定性調査・定量調査の理解 ●関連する仕事の理解 ●市場調査の役割 ●単元のガイダンス <p>定性調査及び定量調査の特徴や、サンプルの抽出方法を理解する。(ア)</p> <p>数値データや記述データを分析し、その結果を整理して表現する。(ア)</p> <p>市場調査が販売戦略の立案に果たす役割を理解する。(ア) → マーケティング・リサーチャーの仕事について理解する。 ※ビジネス基礎</p> <p>ターゲットに応じた商品、価格、チャネル、プロモーションに関する販売戦略を構想する。(イ)</p> <p>市場調査の役割や重要性について、企業活動との関連から考察する。(ア)</p>	
<p>本単元の学習に関連が強い既習内容</p>	<p>科目「ビジネス基礎」(1) 商業の学習とビジネス ア 商業を学ぶ重要性と学び方、(3) 経済と流通 イ 流通の役割、(5) 企業活動 イ マーケティングの重要性と流れ 科目「情報処理」(3) 情報の集計と分析 イ 表・グラフの作成と情報の分析、(4) ビジネス文書の作成 イ ビジネス文書の種類と作成</p>	
	<p>（学びに向かう力・人間性等の「見取る姿」）【検討中参考イメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企業のマーケティング活動に関わる課題や社会の発展を自分との関係で捉え、顧客や社会のニーズに応える価値の創造に主体的に取り組もうとしている。 ●産業界等との連携・協働や多様な他者との対話を通して、マーケティングに関する課題をよりよく解決しようとしている。 ●マーケティングの学習が自身のキャリア形成にどのようにつながるかを認識し、見通しや振り返りを通して、自己の思考や行動を調整しようとしている。 <p>※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意</p>	

「高次の資質・能力」等を活かした単元構想の参考イメージ

単元構想のイメージ

1. マーケティング

2. 単元名：市場調査

3. 教科の見方・考え方

企業活動に関する事象を、利益の追求と社会的責任の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、ビジネスの持続的な発展につなげること。

学習指導要領の記述

4. 分野・区分の高次の資質・能力

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
市場調査に関わる知識や技能を高めることで、販売戦略の立案・評価・改善などにつながることを理解する。	販売戦略に関する課題を多面的・多角的に捉え、他者との合意形成を図りながら、顧客理解や意思決定をすることができる。

5. 学びに向かう力・人間性等の「見取る姿（仮称）」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

- 企業のマーケティング活動に関する課題や社会の発展を自分との関係で捉え、顧客や社会のニーズに応える価値の創造に主体的に取り組もうとしている。
- 産業界等との連携・協働や多様な他者との対話を通して、マーケティングに関する課題をよりよく解決しようとしている。
- マーケティングの学習が自身のキャリア形成にどのようにつながるかを認識し、見通しや振り返りを通して、自己の思考や行動を調整しようとしている。

6. 単元の目標・評価規準

何を身に付けさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
（評価規準）	市場調査で得られた情報の分析について、企業における事例と関連付けて理解するとともに、分析結果を販売戦略に活用する技術を身に付ける。	情報の分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて販売戦略を立案し、評価・改善するとともに、その課題を解決する。

7. 評価課題

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その実現状況を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

購買意識から顧客ニーズを推測し、販売戦略を立案する方法について説明しなさい。

8. 指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習過程で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ●単元のガイダンス、シラバスとイメージマップの確認 ●市場調査の役割と関連する仕事の理解 ●定性調査・定量調査の理解 観察、インタビュー、アンケート、テストマーケティングなどの特徴と、サンプルの抽出方法を理解 	知	知	<ul style="list-style-type: none"> ●学習の流れと学習方法、前後の学習のつながりや他科目との関連を説明する ※「ビジネス基礎」と関連させながら指導 ●数値データや記述データを分析し、その結果を適切に言語化して説明ができるか確認する <p>観点別学習状況の評価は、定量と定性の違いなど、知識の理解の深さを生徒が記述したワークシートの内容をもとに評価する</p>
3 4	<ul style="list-style-type: none"> ●市場調査の事例研究 ①販売戦略の理解 菓子製造業M社の意識調査の内容を理解 ②購買意識のAI分析 季節イベントと購買意識との関係性を分析 ③変化の比較 外部環境の変化と購買意識の変化を比較（課題の発見） ④販売戦略の立案 仮説設定及び販売戦略を立案（課題解決に向けて） 	知	知 思	<ul style="list-style-type: none"> ●意識調査をもとに、販売に影響する要因を整理し、要因同士の関係を構造的に捉えるよう説明する ※「情報処理」と関連させながら指導 <p>観点別学習状況の評価は、消費者の意識を分析した結果に基づいてM社の戦略を説明しているか、生徒が記述したワークシートの内容をもとに評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生徒は課題を発見した上で、ターゲットに合った商品、価格、チャネル、プロモーションの販売戦略（マーケティング・ミックス）を構想する ※「ビジネス基礎」と関連させながら指導 ●生徒は「○○というデータから、もし△△ならば、□□となると考える。」の形式で仮説設定する <p>観点別学習状況の評価は、外部環境や購買意識の変化から課題を発見した上で、適切なマーケティング・ミックスの計画が立てられているか評価する</p>
5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ●インタビュー調査 小売業、菓子製造業、商工会議所などへの聞き取り ●報告書の作成と発表 報告書の作成、発表及び販売戦略の評価・改善 ●単元のまとめと振り返り 学習内容のイメージマップでの再整理、学習の振り返り 	知	知 思	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒は仮説に基づいた質問を設計する ●生徒はインタビュー結果を整理・分析し、仮説との共通点や相違点を基に、仮説や販売戦略を見直す ※「情報処理」と関連させながら指導 <p>観点別学習状況の評価は、最終提案に向けてインタビューの内容をもとに、仮説の検証及び、販売戦略の評価・改善をしているか評価する</p>

「高次の資質・能力」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」（以下「高次の資質・能力」）の記載は産業教育WGの御議論を踏まえて事務局にて例として作成したものです。

第1学年相当 単元名：第1章 第4節 海と生物（第3章 第1節 磯採集）

※高次の資質・能力は直接の評価対象ではないことに留意

（統合的な理解）
海が私たちの暮らしに果たす役割や、海を持続的に活用することの重要性について理解する。

（総合的な発揮）
海が私たちの暮らしに及ぼす影響や海洋の特徴から課題を発見し、科学的な根拠に基づき探究するとともに、合理的、創造的に考察する。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
（ア）生物の分類体系や、魚類・貝類・甲殻類などの形態的特徴、生物多様性の3つの視点や生態系サービスの意義を理解している。
（イ）磯採集に必要な用具の使用法、安全管理、および適切な記録・輸送の手法を身に付けている。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
（ア）海洋生物が人間生活に与える恵みについて多角的に考察している。
（イ）現地調査での観察を通じて、生物の生息環境や形態的特徴から課題を発見し、科学的な根拠に基づいて野帳に記録し、表現しようとしている。

単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり
8	●学習の振り返り ●評価課題	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>生物多様性が人間に与える恵み等、その影響や生態系サービスの意義を理解する。(ア)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>現地調査で観察した海の生物の特徴から、生物多様性を表現するとともに、生態系サービスを見出し説明する。(ア)</p> </div> </div>
7	◆事後学習(同定と記録)	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>自然環境の中での生物観察、採集および生物の輸送方法について適切に身に付ける。(イ) 採集した生物の調査から、ルールに基づいた適切な野帳への記録を身に付ける。(ア)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>現地の自然環境や採集した生物について、科学的根拠の元、適した観察方法・輸送手段を考察・判断する。(イ)</p> </div> </div>
6 5	◆現地調査(磯採集の実践)	<div style="text-align: center;"> <p>常に「統合的な理解」「総合的な発揮」や単元目標を参照して各時間の学習活動を構想</p> </div>
4	●「1-1磯採集」 ◆事前学習(計画と安全管理)	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>磯採集の服装・持ち物を確認し、海況予測や危険生物への対策を理解する。(イ)</p> <p>生物の生態を理解するための飼育方法や観察のポイントを理解する。(イ)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>現地調査での観察に必要な基本的事項をおさえ、危険察知および適切な対策を考察する。(イ)</p> <p>生物を観察するためのポイントを適切に把握し、特徴を見出し判断する。(イ)</p> </div> </div>
3	●「4-5 生物の飼育と観察」	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>生物多様性の視点及び生態系サービスについて、人間生活に与える影響を理解する。(ア)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>生物多様性を3つの視点で捉え、生態系サービスを特徴から4つに分類・判断する。(ア)</p> </div> </div>
2	●「4-4生態系サービス」 ●「4-3生物多様性」	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>生物の分類および魚介類の特性や各分類の特徴について理解する。(ア)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>魚介類の特徴から、根拠をもって生物の分類（種・属・科・目・綱・門・界）を判断する。(ア)</p> </div> </div>
1	●「4-2魚介類の特性」 ●「4-1生物の分類」 ●海と生物についてのガイダンス	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>海と生物を学習する意義および実習の見通しについて理解する。(ア)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>重量割合で地球上の生命の90%を占める海の生物について、学習の必要性を判断する。(ア)</p> </div> </div>

目的・意義に着目し、対象者への適切な方法を吟味する。

本単元の学習に関連が強い既習内容

(第1学年) 第1章 第3節 海と環境 (3-3海洋環境の保全と管理)

(学びに向かう力・人間性等の「見取る姿」)

- 自由な発想に基づき、水産業や海洋関連産業に関わる課題や社会の発展を自分との関係で捉え、自身の成長や社会への貢献につなげようとしている。
- 産業界等との連携・協働や多様な他者との対話・議論を通じて、倫理観に基づき粘り強い態度で課題をよりよく解決しようとしている。
- 自身の目標や将来の職業と学習との関係を認識し、見通しや振り返りを通じて、自己の思考や行動を調整しながら、課題の解決や価値の創造に挑戦しようとしている。

【水産】

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ

単元構想のイメージ

1. 科目名：水産海洋基礎
2. 単元名：第1章 海のあらまし 第4節 海と生物
(第3章 基礎実習 第1節 磯採集 …現地調査実習)

学習指導要領の記述

3. 教科の見方・考え方

水産や海洋に関する事象を、海洋資源を持続的に利用する視点で捉え、職業人としての自己の成長と、水産業及び海洋関連産業の持続的な発展につなげること。

学習指導要領の記述

4. 分野・区分の高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
海が私たちの暮らしに果たす役割や、海を持続的に活用することの重要性について理解する。	海が私たちの暮らしに及ぼす影響や海洋の特徴から課題を発見し、科学的な根拠に基づき探究するとともに、合理的、創造的に考察する。

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

5. 学びに向かう力・人間性の「見取る姿」(仮称)

- 自由な発想に基づき、水産業や海洋関連産業に関わる課題や社会の発展を自分との関係で捉え、自身の成長や社会への貢献につなげようとしている。
- 産業界等との連携・協働や多様な他者との対話・議論を通じて、倫理観に基づき粘り強い態度で課題をよりよく解決しようとしている。
- 自身の目標や将来の職業と学習との関係を認識し、見通しや振り返りを通じて、自己の思考や行動を調整しながら、課題の解決や価値の創造に挑戦しようとしている。

何を身につけさせたいかを明確にする【目標(評価規準)の設定】

6. 単元の目標・評価規準

目標(評価規準)	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	生物の分類体系や、魚類・貝類・甲殻類などの形態的特徴、生物多様性の3つの視点や生態系サービスの意義を理解している。 また、磯採集に必要な用具の使用法、安全管理、および適切な記録・輸送の手法を身に付けている。	海洋生物が人間生活に与える恵みについて多角的に考察している。 また、現地調査での観察を通じて、生物の生息環境や形態的特徴から課題を発見し、科学的な根拠に基づいて野帳に記録し、表現しようとしている。

身につけさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

7. 評価課題

「磯採集で見つかった生物を3種類挙げ、その形態的特徴と分類上の位置を説明しなさい。また、その生物たちが生息する環境が、私たち人間にどのような『生態系サービス』をもたらしているか、現地調査での気づきを含めて記述しなさい。」

評価課題に向けて資質・能力を身につけ、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身につけさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

8. 指導と評価の計画

時間	学習活動	重点記録	備考
1	●海の生物についてのガイダンス ・重要性、生物を扱う際の留意点 ●「4-1生物の分類」 ●「4-2魚介類の特性」	知	海の生物を学ぶ意義と実習の見通しを示し、課題意識を持たせる。生物の分類を学び、魚類、貝類、甲殻類などの形態的名称と特徴を理解する。
2	●「4-3生物多様性」 ●「4-4生態系サービス」 ・人間に与える影響	思 ○	生物多様性の3つの視点から、人間生活を支える4つの生態系サービス(供給、調整、文化的、基盤)の意義を考察する。
3	●「4-5生物の飼育と観察」	知	生物の生態を理解するための飼育方法や観察のポイントを学び、現地調査に向けた動機付けを行う。
4	●第3章「1-1磯採集」 ・事前学習(計画と安全管理)	知	磯採集の服装、持ち物を確認し、海況予測や危険生物への対策を学ぶ。
5 ・ 6	・現地調査(磯採集の実践)	思 ○	潮間帯やタイドプールでの生物採集・観察。自然の状態の観察から始め、バケツへの採取、適切な輸送方法等を実践する。
7	・事後学習(同定と記録)	知 思 ○	採集した生物を調べ、観察野帳にスケッチや特徴を記録する。魚類は頭部を左にして描く等のルールを実践する。
8	●学習の振り返りと評価課題「学習課題」 パフォーマンス課題の実施	知 思	単元の振り返りを行い、発見した生物多様性と、それが人間に与える恵みについて記述・発表する。 単元を通じての変容を確認し、パフォーマンス課題によって評価するとともに、今後の学習への意欲につなげる。

【専門家庭】

「高次の資質・能力」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」（以下「高次の資質・能力」）の記載は産業教育WGの御議論を踏まえて事務局にて例として作成したもの。		科目名：生活産業基礎 単元名：人々の「困った」をサービスに生まれ変わらせよう（その1）		※高次の資質・能力は直接の評価対象ではないことに留意	
		（統合的な理解） 生活産業を継承・発展・創造していくことで、人々の暮らしをより豊かにできることについて理解する。		（総合的な発揮） 生活産業における課題を見だし、これからのよりよい生活産業の在り方について、考え、工夫することができる。	
		（単元目標・評価規準）知識及び技能 ア 生活産業の特質に応じた、実践的・体験的な学習の方法と進め方について理解している イ 生活産業に関する課題について創造的な解決に繋げるために必要な技能を身に付けている		（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等 ア 具体的な課題（商品開発や地域貢献等）に対し、計画・実践・評価・改善のプロセスを自らマネジメントしながら課題解決に向け考え、工夫する。	
時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり（抜粋）			
9 8 7	<ul style="list-style-type: none"> ●（発表・振り返り）発表し意見を共有し、振り返りを行う ●（評価・改善）評価結果を分析し、サービスの改善案を考える。 	現在の生活産業は、時代とともに変化するとともに、検証・改善のサイクルの過程で磨き上げられており、今後自分たちがその役割を担っていく必要があることを理解する（ア、イ）		探究の成果を、筋道立ててまとめ、表現することができる（ア）	
6 5 4 3	<ul style="list-style-type: none"> ●（実践）クラス内でサービスを試行し、利用者の反応を得る。 ●（計画）課題解決につながるサービスを計画する。 ●（課題設定）対象者を明確にし、解決すべき課題を設定する。 	日常生活を送る中での願いの実現や困りごとの改善に向けたよりよいサービスを生み出すためには、評価・改善を繰り返すことが重要であることを理解する（イ）		サービス利用者の反応や意見を収集・分析する（ア）	
2 1	<ul style="list-style-type: none"> ●（問題発見）クラス内の身近な生活の中にある困りごとを収集・整理する ●生活産業とサービスの関係を理解する。 	多様な他者との連携・協働が、よりよい解決につながることを理解する（ア）		構想した計画をもとに、多様な他者と連携・協働しながら表現する（ア）	
		生活をよりよくなるサービスとして成立するためには、実現性や収益性、継続性が必要であることを理解する（ア）		対象者の立場に立ち、実現可能性をもとに、多様で具体的な解決策を構想する（ア）	
		対象を明確にし、より適切な課題設定をすることが、よりよい計画の策定、その後の実行、評価・改善につながることを理解する（イ）		収集した情報をまとめたり分類したりして、問題を整理・分析する（ア）	
		よりよい意思決定を行うためには、客観的な調査方法による情報収集が重要であることを理解する（イ）			
		生活産業が人々の暮らしや生活の質の向上に果たしている役割を理解する（ア、イ）			
本単元の学習に関連が強い既習内容		（家庭基礎・家庭総合）生活の課題と実践（仮称） （中学校 家庭）生活の課題と実践（仮称）			
		（学びに向かう力・人間性等の「見取る姿」） ※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意			
		<ul style="list-style-type: none"> ・生活産業に関わる課題や社会の在り方を、自分事として捉え、多様な他者との対話・協働を通してそれらをよりよく解決しようとしている。 ・生活産業に関わる職業人としての視点から、自身の思考や行動を客観的に捉え、調整しようとしている。 ・生活産業に関わる職業人としての倫理観と豊かな人間性、社会の一員としてよりよい社会の実現のために働きかけようとしている。 			

「高次の資質・能力」等を活かした単元構想の参考イメージ

単元構想のイメージ

1. 生活産業基礎

2. 単元名：人々の「困った」をサービスに生まれ変わらせよう (その1)

3. 教科の見方・考え方

生活産業に関する事象を、生活の質の向上の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、生活産業の発展につなげる

学習指導要領の記述

4. 分野・区分の高次の資質・能力

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
生活産業に関する様々な課題の解決に向けて取り組むことで、人々の暮らしがより豊かになることを理解する。	生活産業に関する課題解決を通して、人々の暮らしをより豊かにするために、商品やサービスの提供に向けて工夫することができる。

5. 学びに向かう力・人間性等の「見取る姿」(仮称)

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

人々の暮らしに関する課題を自分との関係で捉え、対象者の立場に立って考えるとともに、他者と協働しながら、よりよい解決に向けて主体的に取り組もうとしている。

- 生活産業に関わる課題を自分との関係で捉え、多様な他者との対話・協働を通してそれらをよりよく解決しようとする態度。
- 職業人としての視点から自己の思考や行動を調整する力。
- 職業人としての倫理観と豊かな人間性。社会の一員としてよりよい社会を実現しようとする態度。

6. 単元の目標・評価規準

何を身に付けさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	生活産業の特質に応じた、実践的・体験的な学習の方法と進め方について理解する	具体的な課題（商品開発や地域貢献等）に対し、計画・実践・評価・改善のプロセスを自らマネジメントしながら課題解決に向け考え、工夫する。

7. 評価課題

身近な生活の中から見いだした困りごとをもちに、対象者を明確にしたサービスを計画・試行し、対象者の評価を踏まえて改善案を提案する。

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その実現状況を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

8. 指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習過程で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備
1 2	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業とサービスの関係を理解する。 ICTを活用して、クラス内の身近な生活の中にある困りごとを収集・整理する 	知	知	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業が人々の生活を支え、生活の質の向上や地域社会の持続的な発展に果たす役割について理解しているかを確認する。 (往 家庭基礎・家庭総合) また、身近な生活の中から「困った」を見だし、ICTを活用して収集・共有できているかを確認する。
3 4 5 6	<p>(課題設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者を明確にし、解決すべき課題を設定する。 <p>(計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決につながるサービスを計画する。 <p>(実践)</p> <ul style="list-style-type: none"> クラス内でサービスを試行し、利用者の反応を得る。 	知	思	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域における生活課題を多面的に捉え、対象者の生活背景やニーズを踏まえて課題設定しているかを見取る。 (往 情報 I) サービスの計画では、対象者の立場や実現可能性を踏まえ生活の質の向上を目指し、内容、提供方法、役割分担、評価方法を具体的に考えているかを評価する。 (往 消費生活) 必要に応じて、教師が問い返しを行い、課題とサービスのつながりを明確にさせる。 利用者の反応をICTを活用して収集できているかを見取る。
7 8 9	<p>(評価・改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価結果を分析し、サービスの改善案を考える。 発表し意見を共有し振り返り <p>(指導上の留意) 実際の生活産業の視点を持てるような働きかけを行う</p>	思	思	<ul style="list-style-type: none"> 評価結果をもちに、サービスのよさや課題を分析し、改善案を考えているかを評価する。 発表や振り返りでは、課題発見から改善までの過程を振り返り、生活産業の意義や今後の学びとのつながりを考えているかを確認する。 (往 情報 I)

【看護】 「高次の資質・能力」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

第1学年相当 単元名：清潔の援助

※高次の資質・能力は直接の評価対象ではないことに留意

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」（以下「高次の資質・能力」）の記載は産業教育WGの御議論を踏まえて事務局にて例として作成したもの。

（統合的な理解）
患者に適した日常生活の援助を行うことが、
患者の生命力の消耗を最小限にし、回復の過程を妨げることなく、
健康を促進させることにつながることを理解する。

（総合的な発揮）
患者に対して、直接情報・間接情報を得て、相手のニーズを満たすことができるように、
生命力の消耗を最小限にして、回復の過程を妨げることなく、それを促進させるべく、
回復に相応しい援助が提案できる。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
生命力の消耗を最小限にし、回復の過程を妨げることがないように、
心地よさを与える清潔の援助の知識や技術、その意義や必要性を
理解する。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
患者にとって最善で根拠のある清潔の援助を目指して、相手を捉え、患者の生命力の消耗
を最小限にし、回復の過程を妨げることがないように、心地よさを与える個々の清潔の援助の
方法を構想し、提案することができる。

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり		看護臨地実習
14 13	<ul style="list-style-type: none"> ●パフォーマンス課題 ●清潔の援助の原理・原則 ●清潔に保つ意義 	<p>看護の専門職者が行う清潔の援助や療養環境を整える上で清潔を保つ意義について理解する。</p>	<p>清潔の援助の目的・意義・効果に着目し、看護の専門職者が実施する清潔の援助とはどのような援助なのかを考察する。</p>	
12 11	<ul style="list-style-type: none"> ●陰部の保清 ●個人の尊厳の尊重 	<p>多様な清潔の援助の目的と方法、科学的根拠を理解する。</p>	<p>清潔の援助に関する科学的根拠に着目し、患者の状況における留意点や安全・安楽な方法について総合的に考察するとともに、個々の患者に適用し、相手の希望に応えた最善な清潔の援助を考察する。</p>	<p>様々な治療処置をしている患者の清潔の援助の実践</p>
10 9	<ul style="list-style-type: none"> ●手浴と口腔の保清 ●清潔の援助の方法と選択 	<p>これまでに学んだことを踏まえて、多様な清潔の援助の方法と実際を理解する。</p>	<p>様々な清潔の援助のニーズを充たす看護の中に、個々の援助に対して共通の原理・原則と、例外があることについて考察する。</p>	<p>機能障害のある患者の清潔の援助の実践</p>
8 7	<ul style="list-style-type: none"> ●臥床患者の頭皮の保清 ●場所・用具・ポジショニング 	<p>自分たちで思考錯誤しつつ、清潔の援助の影響や効果考えた実践（部分・全身清拭）をして清潔の援助の効果を理解する。</p>	<p>看護師役・患者役の体験から、清潔の援助がどのような影響をもたらすか、主観的な気付きから科学的な根拠を探究し、必要な援助を選択する。</p>	<p>自分で身体を清潔に保てない患者の清潔の援助の実践</p>
6 5	<ul style="list-style-type: none"> ●臥床安静患者の全身の保清 ●プライバシー/温かさへの配慮 ●清拭の技術 	<p>清潔の援助の目的は単に身体を清潔にする生理的な側面だけではなく、心理社会的な側面をもつことも理解する。</p>	<p>清潔の援助を実施するために、何をどのように観察し、判断しなければならないかを考察する。</p>	
4 3	<ul style="list-style-type: none"> ●安静度が高い老年患者への部分清拭 ●清潔の援助の効果と影響 	<p>清潔の援助を実施するうえで、患者の自立度や健康状態を考慮して方法・手順を工夫する必要があることを理解する。</p>	<p>最適な清潔の援助を実施するために必要な過程について適切な理由や科学的根拠をもとに考察する。</p>	
2	<ul style="list-style-type: none"> ●清潔の援助の方法の選択 ●安全・安楽な清拭の計画作成 ●環境変化に応じた清潔の援助 	<p>清潔の援助を実施するうえで、五感と知識を使って患者の状況を観察し、患者の清潔のニーズを確認、判断する必要性を理解する。</p>		
1	<ul style="list-style-type: none"> ●清潔の援助のニーズと目的、多様性 ●清潔習慣と個人的価値 ●物品の選択と配慮 		<p>患者の直接情報・間接情報から清潔の援助の必要性を判断する。</p>	

目的・意義に着目し、患者・対象者への適切な方法を吟味する。

本単元の学習に関連が強い既習内容 (第1学年) 人体の構造と機能 (皮膚の構造と機能、運動器の構造と機能) (第1学年) 基礎看護 (人間の基本的ニード、コミュニケーション、活動と運動、寝衣交換)

(学びに向かう力・人間性等の「見取る姿」) ※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意
 ・産業界等との連携・協働や、多様な他者との対話・議論を通じて、患者の健康に関わる実践的な課題をよりよく解決しようとしている。
 ・看護の専門的な知識や技能に基づき、あらゆる年代・健康レベルの看護に関わる課題を自分との関係で捉え、それらの課題に進んで解決に取り組み、社会の発展に貢献している。
 ・今の学習や既習の内容と看護の実際とのつながりを認識し、振り返りを通して、将来に向けて自己の思考や行動を調整しようとしている。

【看護】

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ

単元構想のイメージ

1. 科目名：基礎看護
2. 単元名：看護の基本となる援助技術と探究（仮）清潔
3. 教科の見方・考え方
人間の健康に関する事象を、回復や増進の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、健康的な生活・環境の実現や地域医療の発展につなげること
4. 分野・区分の高次の資質・能力

学習指導要領の記述

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
患者の生命力の消耗を最小限にして、回復の過程を妨げることなく、それを促進させるべく、回復に相応しい環境を整えることの意義を理解する。	患者の生命力の消耗を最小限にして、回復の過程を妨げることなく、それを促進させるべく、回復に相応しい療養環境を整え、患者に最善の日常生活援助を行う。

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

5. 学びに向かう力・人間性の「見取る姿（仮称）」
 - ・ 産業界等との連携・協働や、多様な他者との対話・議論を通じて、患者の健康に関わる実践的な課題をよりよく解決しようとしている。
 - ・ 看護の専門的な知識や技能に基づき、あらゆる年代・健康レベルの看護に関わる課題を自分との関係で捉え、それらの課題に進んで解決に取り組み、社会の発展に貢献している。
 - ・ 今の学習や既習の内容と看護の実際とのつながりを認識し、振り返りを通して、将来に向けて自己の思考や行動を調整しようとしている。

何を身につけさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

6. 単元の目標・評価規準

目標（評価規準）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	生命力の消耗を最小限にし、回復の過程を妨げることがないように、心地よさを与える清潔の援助の知識や技術、その意義や必要性を理解する。	患者にとって最善で根拠のある清潔の援助を目指して、相手を捉え、患者の生命力の消耗を最小限にし、回復の過程を妨げることがないように、心地よさを与える個々の清潔の援助の方法を構想し、実施することができる。

7. 評価課題

「看護師が行う、患者にとって最善の清潔の援助を次に示す患者に向けて実践しなさい」

身につけさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

評価課題に向けて資質・能力を身につけ、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身につけさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

8. 指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	備考
1/2	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元のガイダンス ● 清潔のニーズと目的、多様性 ● 清潔ケアが及ぼす影響 ● 清潔習慣と個人的価値 ● 文化としての清潔習慣 ● 清潔の援助の方法の選択（入浴など） ● 物品の選択と配慮 	知	思	※ガイダンスでは、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の概要と流れ ・ パフォーマンス課題とルーブリック ・ 前後の学習内容とのつながり（人体、体位、寝衣） ・ ワーキング・ポートフォリオへの記録を指導する ※教科書や動画をもとに、実際に自分たちで足浴を体験してみる
3/4	<ul style="list-style-type: none"> ● 安静度が高い高齢の患者への部分清拭 ● 清潔の援助による身体的な効果 ● 清潔の援助を実施する際の留意点 	思	思	※グループワークを実施する（校内実習） ※「気持ちの良い部分清拭とはどのようなものか」を問い、自分たちで物品を選択し、患者の安全・安楽を考慮した部分清拭を実施し、患者にとってどのような足浴が良いのか、実施前・中・後に留意することは何であるかについて、協働的に学習する
5/6	<ul style="list-style-type: none"> ● 臥床安静患者の全身清拭の演習 ● プライバシー/ 温かさへの配慮 ● 安全・安楽に向けた清拭の技術 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支え方 ・ 力加減 ・ 触れ方 ・ かけ湯の実際 ・ 体位 ・ ボディメカニクス ・ 湯温 など 	思	思	※グループワークを実施する（校内実習） ※個々の役割分担（患者役・看護師役）に分かれて、生命力の消耗を最小限にする全身清拭を試行錯誤しながら実施する。その際には、「運動・休息」の体位変換、「衣生活」の寝衣交換の内容が清潔の援助の安楽さにつながることも意識させる ※学習内容をポートフォリオに記録する
7/8	<ul style="list-style-type: none"> ● 臥床患者への洗髪の実習 ● 場所・用具・ポジショニング 	知	思	※グループワークを実施する（校内実習） ※学習内容をポートフォリオに記録する
9/10	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者の個性に合わせた手浴、口腔ケア 	思	思	※グループワークを実施する（校内実習） ※学習内容をポートフォリオに記録する
11/12	<ul style="list-style-type: none"> ● 陰部の保清 ● 個人の尊厳の尊重 	知	思	※グループワークを実施する（校内実習） ※学習内容をポートフォリオに記録する
13/14	<ul style="list-style-type: none"> ● パフォーマンス課題の実施 ● 清潔ケアの意義 ● 清潔の援助の原理・原則 	態	思	※ポートフォリオを活用した振り返り ※高次の資質・能力を踏まえたパフォーマンス課題で、資質・能力の深まりを確認する。 ※観点別学習評価は、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 回復の促進と生命力の消耗を最小限にした清潔の援助を提供しているか ・ 根拠にもとづいた清潔の援助を提供しているか を評価する。

皮膚の保全に繋がるという共通点や部位による物品準備や方法などの相違点を意識

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」（以下「高次の資質・能力」）の記載は産業教育WGの御議論を踏まえて事務局にて例として作成したものです。

高等学校・専門教科情報科・情報探究基礎 単元名（2）情報デザインと表現

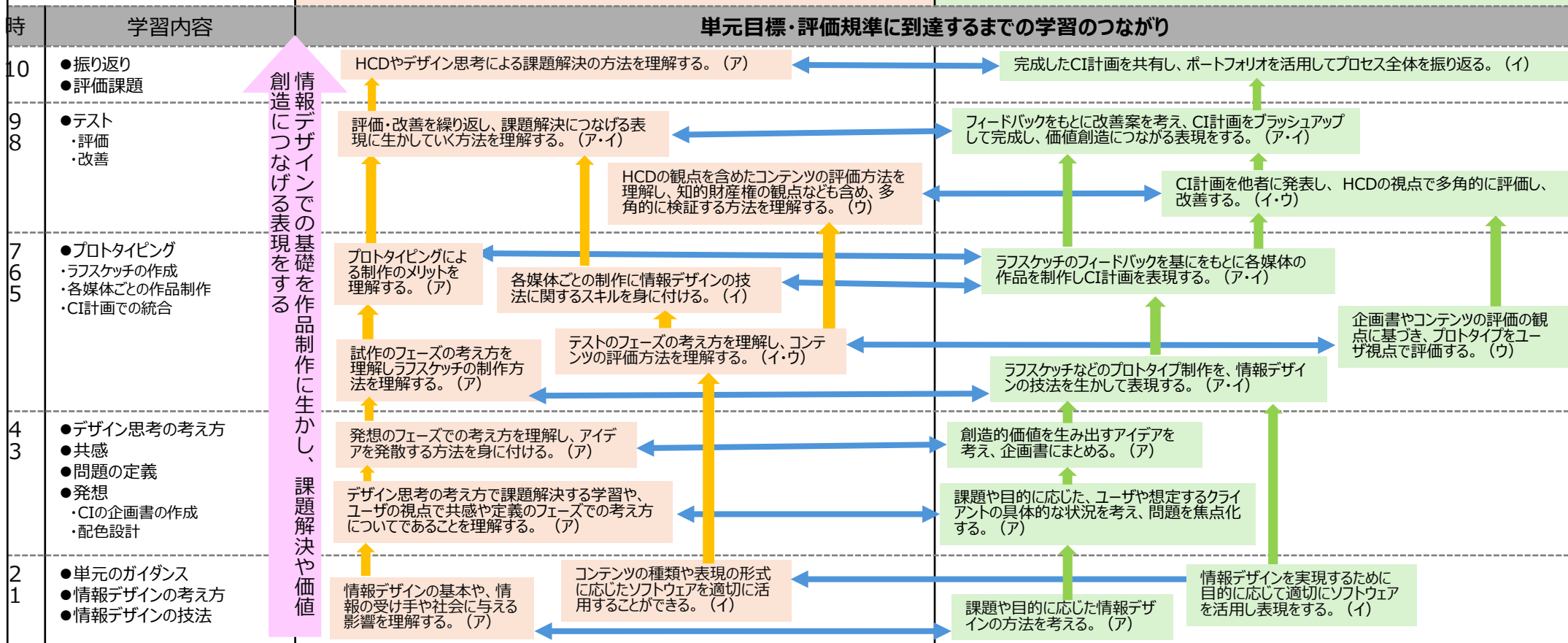
※高次の資質・能力は直接の評価対象ではないことに留意

（統合的な理解）
・情報の受け手や社会に与える影響を考慮する視点に立ち、情報デザインをすることが、人々の理解や行動を促し、価値の創造につながることを理解する。

（総合的な発揮）
・課題や目的に応じて情報デザインを考え、情報の受け手や社会にととの価値創造につなげるための設計・制作・評価・改善を繰り返し、表現することができる。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
ア 情報デザインの基本（デザイン4原則や配色、効果等）、HCDやデザイン思考による課題解決の方法、情報の受け手や社会に与える影響を理解している。
イ 行動の促す情報デザインの技法を身に付け、コンテンツの種類や表現の形式に応じたソフトウェアを適切に活用する技能を身に付けている。
ウ ユーザビリティやアクセシビリティなどを含めたコンテンツの評価方法を身に付けている。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
ア 課題や目的に応じて情報デザインを考え、創造的価値を生み出す表現を判断している。
イ 情報デザインの技法を生かして、設計・評価・検証・改善を繰り返すデザイン思考による課題解決の考察をし、価値創造につながる表現している。
ウ HCDによる評価や検証の結果を基に課題を分析し、価値を高める改善策を判断している。



情報デザインでの基礎を作品制作に生かし、課題解決や価値創造につなげる表現をする

本単元の学習に関連が強い既習内容

（情報Ⅰ）（2）情報デザインとデザイン思考

本単元の学習に関連が強い他の科目

【情報デザイン・社会表現分野】情報デザイン、ユーザ・エクスペリエンス・デザイン、メディアデザイン、共創メディアデザイン

（学びに向かう力・人間性等の「見取る姿」）【検討中参考イメージ】

- ・データ・コンテンツ・システムにかかわる課題を自分との関係で捉えようとしている。
- ・情報に関する事象に多様な他者との対話・協働を通して、課題や問いを見だし、解決しようとしている。
- ・情報及び情報技術に関する職業人としての視点から、よりよい解決や価値創造に向け追求し続けようとしている。

※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

【専門情報】

「高次の資質・能力」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ

単元構想のイメージ

1. 科目名：情報探究基礎

2. 単元名：（2）情報デザインと表現

3. 教科の見方・考え方

情報に関する事象を、課題解決や価値創造の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、情報及び情報技術を活用したよりよい社会の実現につなげる

4. 分野・区分の高次の資質・能力

統合的な理解	総合的な発揮
情報の受け手や社会に与える影響を考慮する視点に立ち、情報デザインをすることが、人々の理解や行動を促し、価値の創造につながることを理解する。	課題や目的に応じて情報デザインを考え、情報の受け手や社会にとっての価値創造につなげるための設計・制作・評価・改善を繰り返し、表現することができる。

5. 学びに向かう力・人間性の「見取る姿（仮称）」

情報に関する事象に主体的・協働的に関わり、情報及び情報技術に関する職業人としての視点から、データ・コンテンツ・システムを基に課題や問いを見だし、よりよい解決や価値創造に向け追求し続けようとしている。

- データ・コンテンツ・システムにかかわる課題を自分との関係で捉えようとしている。
- 情報に関する事象に多様な他者との対話・協働を通して、課題や問いを見だし、解決しようとしている。
- 情報及び情報技術に関する職業人としての視点から、よりよい解決や価値創造に向け追求し続けようとしている。

6. 単元の目標・評価規準

目標（評価規準）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	・情報デザインの基本的な考え方を理解し、その技法を身に付け、デザイン思考の考え方による課題解決の方法を理解するとともに、・・・	・課題や目的に応じて情報デザインを考え、デザイン思考の考え方で設計・評価・検証・改善を繰り返す創造的価値を生み出す表現し、・・・

7. 評価課題

「CI計画」の一連の流れで取り組んだことについて、ポートフォリオを作成しない。

身につけさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

8. 指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身につけさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1 2	●単元のガイダンス ●情報デザインの考え方 ●情報デザインの技法	知		※ガイダンスでは、 ・「情報デザイン・社会表現」分野やその各科目との関わり ・単元の概要と流れ、ルーブリックを指導する。 ※情報デザインの考え方・技法と「情報デザイン」の科目とのつながりをイメージできるようにする。
3 4	●デザイン思考の考え方 ●共感 ●問題の定義 ●発想 ・CIの企画書の作成 ・配色設計	思		※個々の役割分担に分かれて調査する場面と、協働学習により合意形成する場面を組み合わせて学習を行う。 ※産業界で活用されている技法を用いて、協働的に学習する ※ポートフォリオを作成し、10限目の学習の振り返りに生かす行う。 ※HCDの観点やデザイン思考の考え方等を、「ユーザ・エクスペリエンス・デザイン」の科目とのつながりをイメージできるようにする。
5 6 7	●プロトタイプング ・ラフスケッチの作成 ・各媒体ごとの作品制作 ・CI計画での統合	思		※CI計画として全体性の統一感を持ちつつ、複数の技法を活用して個々の媒体の作成を行い、役割分担に分かれて制作する場面と、協働学習により制作する場面を組み合わせて学習を行う。
8 9	●テスト ・評価 ・改善	知 思	○ ○	※観点別学習評価は、 ・情報デザインの基本的な考え方を踏まえた表現をしているか ・CI計画として、作品の完成度が高い表現をしているか ・コンテンツに応じた評価手法により、価値を高める改善策を考えているかを記述分析で評価する。
10	●振り返り ・ポートフォリオを活用したプロセス全体の振り返り ●評価課題	知 思	○ ○	※ポートフォリオを活用してプロセス全体の振り返ることにより、「メディアデザイン」や「共創メディアデザイン」の科目とのつながりをイメージできるようにする。 ※評価課題で、資質・能力の発揮の水準を確認する。

「高次の資質・能力」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

【福祉】

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」（以下「高次の資質・能力」）の記載は産業教育WGの御議論を踏まえて事務局にて例として作成したものです。

第1学年相当 科目：社会福祉基礎 単元名：社会福祉の理念と意義

（統合的な理解）

・誰もが尊厳を保ち、地域で支え合いながら自立した生活を送れることが、私たちの暮らしを豊かにし、よりよい地域づくりにつながることを理解する。

（単元目標・評価規準）知識及び技能

- (ア) 生活と福祉との関係や、社会福祉の理念・意義について理解する。
- (イ) 身近な生活課題を捉えるために必要な技能を身に付ける。

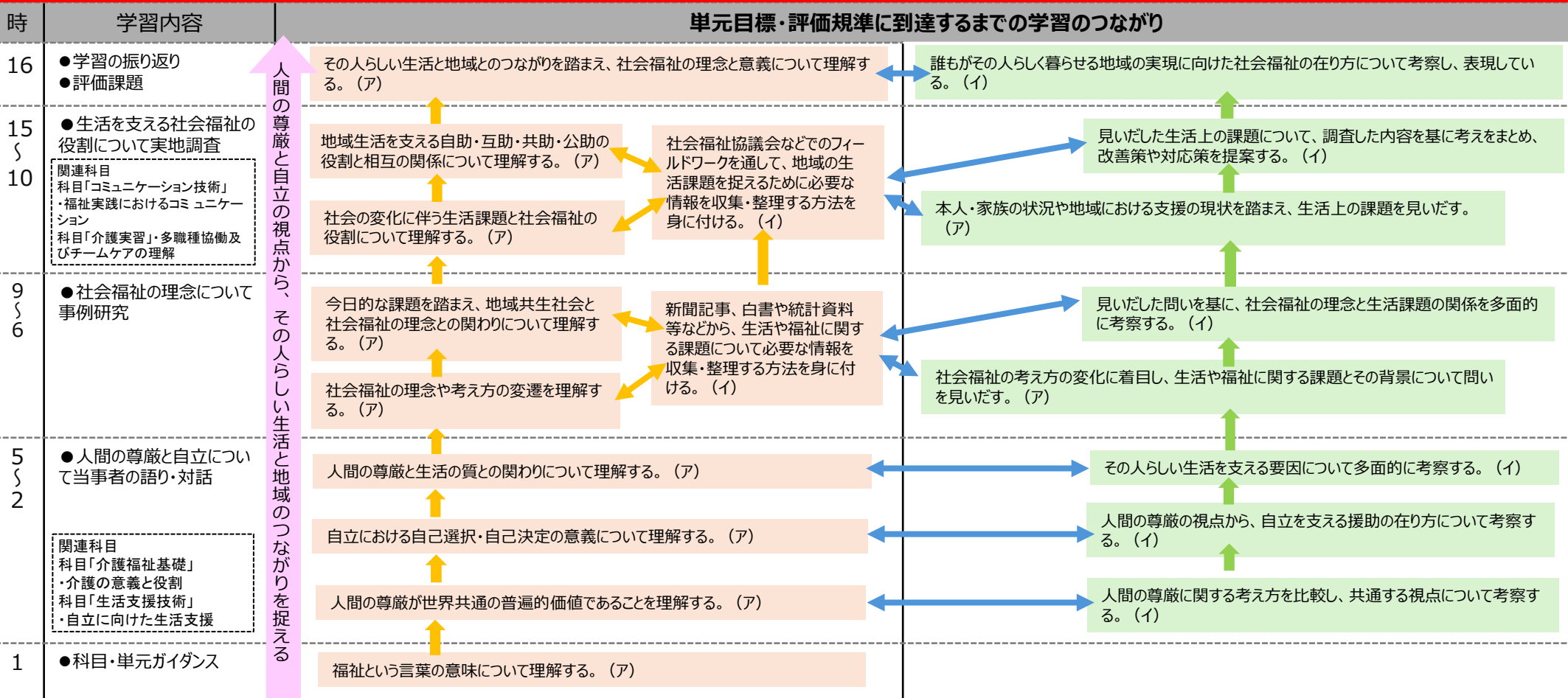
（総合的な発揮）

※高次の資質・能力は直接の評価対象ではないことに留意

・日常生活を見つめ、尊厳の保持や自立支援の視点から身近な生活事象に関心や疑問をもち、科学的な根拠に基づいて状況を整理し、背景や要因を考察できる。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等

- (ア) 生活に関する事象に着目し、人間の尊厳や自立の視点から問いを見いだす。
- (イ) 日常生活や地域とのつながりを踏まえて、多面的に考察し、表現する。



本単元の学習に関連が強い既習内容

(中学校)・社会科 公民的分野 少子高齢化に関する学習 人間の尊重と日本国憲法に関する学習
・技術・家庭科 家庭分野 家族・家庭や地域との関わりに関する学習

(学びに向かう力・人間性等の「見取る姿」) 【検討中参考イメージ】 ※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通して見取るものであることに留意

- ・社会福祉に関わる課題や社会の在り方を自分事として捉え、問いを見いだし、自己の成長や地域社会への参画に向けて進んで関わろうとしている。
- ・当事者や福祉専門職等との対話・協働を通じて、多様な立場を尊重しながら、倫理観に基づき、課題をよりよく解決しようとしている。
- ・社会福祉を学ぶ意義を踏まえ、自己の考えの変容や課題の発見・解決の過程を振り返り、今後の学習や生活に生かそうとしている。

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その実現状況を判断できる課題を考える
【評価課題のデザイン】

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差を学習過程で見取り、適切なフィードバックの方法を考える
【形成的評価の計画的な実施】

「高次の資質・能力」等を活かした単元構想の参考イメージ

単元構想のイメージ

1. 科目名：社会福祉基礎

2. 単元名：社会福祉の理念と意義

3. 教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

生活に関する事象を、人間の尊厳と自立の視点で捉え、職業人としての自己の成長と地域福祉の推進につなげること。

4. 分野・区分の高次の資質・能力

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
誰もが尊厳を保ち、地域で支え合いながら自立した生活を送れることが、私たちの暮らしを豊かにし、よりよい地域づくりにつながることを理解する。	日常生活を見つめ、尊厳の保持や自立支援の視点から身近な生活事象に関心や疑問をもち、科学的な根拠に基づいて状況を整理し、背景や要因を考察できる。

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

5. 学びに向かう力・人間性等の「見取る姿（仮称）」

- 社会福祉に関わる課題や社会の在り方を自分事として捉え、問いを見だし、自己の成長や地域社会への参画に向けて進んで関わろうとしている。
- 当事者や福祉専門職等との対話・協働を通じて、多様な立場を尊重しながら、倫理観に基づき、課題をよりよく解決しようとしている。
- 社会福祉を学ぶ意義を踏まえ、自己の考えの変容や課題の発見・解決の過程を振り返り、今後の学習や生活に生かそうとしている。

何を身に付けさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

6. 単元の目標・評価規準

目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
（評価規準）	生活と福祉との関係や、社会福祉の理念と意義について理解するとともに、身近な生活課題を捉えるために必要な技能を身に付ける。	生活に関する事象について、人間の尊厳と自立から問いを見だし、日常生活や地域とのつながりを踏まえて、多面的に考察し、表現する。

7. 評価課題

社会福祉を活用して、地域でその人らしい生活を実現している事例を調べ、生活課題の背景や要因を整理し、地域とのつながりを踏まえた支援や関わり方について考えをまとめなさい。

8. 指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	備考
1	●科目・単元のガイダンス ●福祉の言葉の意味とは			※科目の意義や学習の流れ、学習方法について説明する。 ※福祉という言葉の意味について理解を促す。
2 ～ 5	●人間の尊厳と自立について当事者の語り・対話 ・人間の尊厳に関する理念や宣言や条約 ・自立とは ・自立生活支援とは	思 知	○	・思①：ワークシート（実践的な学習） 当事者の語りや対話などを通して、自己選択・自己決定と自立との関係について考察できるようにする。 ・知①：ワークシート 人間の尊厳と自立の概念を適切に説明できるように促す。 ●科目「介護福祉基礎」：介護の意義と役割 ●科目「生活支援技術」：自立に向けた生活支援と関連させながら指導
6 ～ 9	●福祉の理念について事例研究 ・日本国憲法と社会福祉 ・経済的救済から自立生活支援へ ・地域共生社会	思 知		・思②：レポート 社会福祉の考え方の変化に着目し、生活や福祉に関する課題やその背景から問いを見だし、社会福祉に求められることについて考察できるようにする。 ・知②：小テスト 社会福祉の理念を日本国憲法や生活課題と関連付けて説明できているかを確認する。
10 ～ 15	●生活を支える社会福祉の役割について実地調査 ・家族や生活様式の変化 ・社会や健康を取り巻く変化 ・生活を支える仕組み	思	○	・思③：フィールドワークシート（実践的な学習） 社会福祉協議会などでのフィールドワークを通して調査した内容を基に考えをまとめ、改善策や対応策を提案できるようにする。 ●科目「コミュニケーション技術」：福祉実践におけるコミュニケーション ●科目「介護実習」：多職種協働及びチームケアの理解と関連させながら指導
16	●学習の振り返り ●評価課題	学 思	○	・学①：リフレクションシート 単元を通じた自己の変容を振り返り、今後の学習や日常生活につなげることができるよう促す。 ・思④：評価課題 「総合的な発揮」を踏まえた評価課題で、資質・能力の深まりを確認する。